

藤 沢

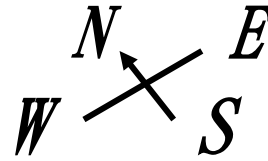
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2018年9月1日

第292号



主
な
記
事

- ・全国ソーラーシアリングサミットに参加
- ・ふじさわせっけんまつり
- ・藤沢・不戦の誓い 平和行動
- ・辺野古レポート#3「連帯」

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

FAX 0466-87-4922

原水爆禁止世界大会に参加して

原水禁世界大会が広島で行われ参加して来ました。長崎も含め3回目の参加で、いつも慌ただしく参加していたので、今回は是非行きたい所、参加したい所を決めていきました。それは ①原爆資料館をゆっくり見学 ②沖縄との連帯の分科会に参加 ③女性のつどいに参加 ④灯籠流しをすることでした。

先ず1日目、広島に着いてすぐ平和公園に行きました。参加を支援した下さった方からの思いを込めた「折り鶴」を届け、平和の鐘を鳴らしてきました。原爆資料館は午前中ゆっくり見学、佐々木禎子さんが願いを込めて、薬の包装紙などで折った小さい鶴が飾ってあり悲しみを誘われました。米大統領のオバマさんが折った鶴も飾ってありました。2階の中央にインターネットなどを使つての、原爆投下のその瞬間の映像が見られるようになっていて、見てみると頭がくらくらとしてきました。

公園には「被爆のアオギリ」が、ひこばえも育ち元気に大きな花(実?)をつけていました。

沖縄との連帯は、今年2月、名護市長選挙で自公民候補に負けた残念な思いをしていましたので、県知事はぜひ辺野古新基地反対の知事になってもらいたいとの思いでした。「オール沖縄」の人から翁長さんの強い決意の載った「ひやみかちうまんちゅうの会ニュース(すべての人が楽しく平和に)」が配布され、その中には安室奈美恵さんの応援メッセージも載っていました。参加者の中には「沖縄のことは私のこと、応援に行きます」と宣言した人もいました。ところが帰宅した翌日8月8日、翁長さん逝去のニュース。

6日の夜、灯籠流しは圧巻でした。私は初めての灯籠流し、翁長さんの健康回復と非核の願いを書いて流したのですが、元安川を行きつ 戻りつしながら流れていく灯籠に、願いはすんなり叶うものではないなあと、足がガクガクしました。

「女性のつどい」は、昨年7月、国連で122カ国の賛成を得て核兵器禁止条約が採択されたことや、朝鮮半島の非核化、北東アジアの平和体制の確立に向けて歴史的な一歩を踏み出したこともあり、多くの国から沢山の女性が参加していました。ちょっと正直に言うと外国の方のメッセージの通訳が長く疲れました。

最後に広島の平和式典で子どもの代表の言葉で私が気に入ったところを書きます。(小柳倫子)

平和とは 自然に笑顔になれること

平和とは 人も自分も幸せであること

平和とは 夢や希望を持てる未来があること



原爆資料館でオバマ大統領が折った折り鶴の展示

全国ソーラーシェアリングサミット 2018 に参加して

7月14日(土) 12時~18時 小田原お堀端コンベンションホールで全国ソーラーシェアリングサミット 2018 in あしがら小田原大会が行われました。

基調講演(1)で馬上丈司氏(千葉エコエネルギー)は、エネルギーと食料の未来、以前エネルギーが抱える矛盾、自然エネルギー普及は何のためか、日本農業課題(農業人口 182 万人(65 歳以上 121 万人)新規就農者 6 万人(44 歳以下 1.9 万人)、耕地面積 444 万 ha(田 242 万 ha、畑 202 万 ha、荒廃農地 28 万 ha)、2017 年度、農業生産高の減少が著しい。この 30 年間で秋田県は半減した。戦前には 800 の電力会社(8 割は民間、水利組合などを中心に水力発電)があり、農業は食の地産地消だけでなく、エネルギーの地産地消で、農業と自然エネルギーの共生モデルがあった。農水省は、今年 5 月 15 日にソーラーシェアリング制度について見直しが行われた(平成 30 年農新 78 号)。農業を支える方策としてソーラーシェアリング普及に踏み込んだ。平成 28 年度末のソーラーシェアリングの概況は、累計許可 1182 件、設置面積 330.9ha、認定容量 7168 万 kwh であるが、ソーラーシェアリングの導入ポテンシャルは、耕地面積の 1%→30GW、荒廃地面積の 10%→18GW が可能である。そのため、2018 年 4 月に第 5 次環境計画に基づき、ソーラーシェアリングを営農型太陽光発電と位置づけて推進するため、農水省はガイドブックを作成した。ソーラーシェアリングによる地域再生のモデルとして、千葉県匝瑳市、秋田県の水田ソーラー(国内日照量最低の秋田県の水田でソーラーができるということは全国どこでもソーラーは可能なことを証明)等がある。化石燃料に頼らない次世代農業の実現の展望が語られた。

基調講演(2)では RE100 宣言で国内 7 番目の城南信用金庫顧問吉原毅氏は自然・再生可能エネルギーの推進で原発を止めることができる。事業はハートとやる気が最も大切だと熱弁をふるった。

セッション(1)「ソーラーシェアリングの作り方&活かし方」では、コーディネーター竹村英明氏(市民電力連絡会)、パネリスト栗田省三氏((株)パスポート常務取締役)、井上保子((株)宝塚すみれ発電代表取締役)、鎌田知也氏(農水省食料産業局再生可能エネルギー室長)によるパネルディスカッションが行われた。各パネリストはこれまでの豊富な経験を語り、大いに参考になった。中でも印象に残ったのは、竹村氏がやがて、ソーラーは農機具になる(トラクターは化石燃料→電気自動車化など)。また、農水省の鎌田氏は「未来投資戦略 2018」で太陽光発電を位置づけ、促進することになった。荒廃農地対策なども含め、営農と発電の両立を図るため、FIT なしで事業が出来るモデルシステム(1000 万円までの補助金)を公募する。

総括セッションのテーマは「100 年先の地域・経済、農業・社会を見据えて」でコーディネーター小山田大和氏(合同会社小田原かなごてファーム)、パネリスト鈴木悌介氏(小田原箱根商工会議所会頭)、神津多可思氏((株)リコー)、加藤憲一氏(小田原市長)、本山氏(松田町町長)など多彩な顔ぶれであった。鈴木氏は、エネルギーはツールである。何をどうしたいのか議論を深め、地域の経済が元気になることを考えよう。しかし、地域間競争になってはいけなく、競争すると必ず負ける地域が出来る。そうではなく地域が連携すること。地産地消・分散型エネルギーが重要である。神津氏(リコーは RE100 の日本 1 号)は未来への責任、温暖化・気候変動に対処する SDGs、ESG 原則の視点が企業として重要。加藤市長は小児ガンの娘の親としての体験から、行政はいのちに立脚し、くらしといのちを大切に政策体系が重要であると語った。

これらに先だって、午前中はソーラーシェアリングの視察(中井町、小田原かなごてファーム&ZEB ビル)が行われ、盛況でした。

まとめとして、脱化石燃料農業→ソーラーシェアリング→農業電力の確立→地域の新電力との提携→地域からの街興しの展望が見えてきたと感じました。

(宮地俊作)





7月22日に藤沢市民会館で開催した藤沢せっけんまつりの報告をします。(アンケートを元に)

「今日はこの夏最高の猛暑日ですって!」昼のニュースを見てから来たというその方は汗を拭きふき「去年も来たけど又楽しみにして来たのよ」とうれい言葉を残して会場へ。

昨年、駅前ビルの6階から市民会館へ会場を替えたところ、乳母車押しての家族の来場が多くまつりに変化がありましたが、この暑さでは赤ちゃんや幼子連れの外出は控えられたようです。でも何か目的を持っての来場者が多く各ブースは興味関心の高さを感じる会話が満ちていくようでした。

●沢山の会社がせっけんを出していること知る良い機会でした。(30代)

●子供が楽しめる企画があり、その間に大人が商品を見ることができた。(30代)

●色々のメーカーさんからお話を伺う事ができ試供品もいただいた。(40代)

●せっけんの良さ、安全性の再確認、又せっけん生活に戻ろう。(40代)

●様々の情報が手に入り、改めてせっけんの大切さを知る機会。(50代)

●石鹸を使った方が自然や体良いことわかりました。(50代)

●とっても感動、フェイスブックで広めよう●学べました。

●活動している方々とせっけんを扱っている企業が一堂に会するのは素晴らしい。(50代)

この感想通り参加団体同士の交流も開催祭り開催目的のひとつです。参加団体アンケートでも全員が交流できた!次回も参加すると回答。

○アットホームな雰囲気の良いイベントだと思う。

○いつもありがとう今後もよろしく。

○継続は力なり共に頑張りましょう等の添え書きにそれぞれの意気を感じ励まされました。

藤沢市せっけん推進協議会の活動も37年を超えました(きれいな水を守ることは命を守ること)の理念を、常にふだんの生活人間わがにて爽やかに実現したいという思いで活動しています。

●今後も環境にやさしい日本であってほしいです。(50代)

安全で安心、心平穏のくらしはみんなの願いです。

《さあ来年のまつり、どの様に企画を充実させようか》意欲が湧いています。(手塚弘子)

8月15日に今年も毎年恒例の「ふじさわ・不戦のちかい 平和行動」が開催されました。サンパール広場が工事中で使用できないため、辻堂駅2階のコンコースで初めての開催でした。不戦のちかいの大小ののぼりに交じって、立憲4野党や2会派ののぼりもたち、湘南太鼓の勇壮な響き、鮮やかな装束をまとった「月桃の花」歌舞団のエイサー、三線演奏、藤沢合唱団の歌声の合間に高校生平和大使をはじめ、議員や市民が様々な視点で通行人に平和と不戦を訴えました。今回初めてのバルーンアート子どもたちに大人気でした。

この行動は2004年、前年から自衛隊がイラク

に派遣されることに危機感を抱いた当時市議会議員だった植木裕子さんが超党派の議員や市民



に呼びかけて始まりました。それ以来、毎年8月15日の敗戦記念日と12月8日の開戦記念日の2回、欠かすことなく連続して開催してきました。最近話題の野党共闘も藤沢では14年も前から実施されてきていたのです。また、さまざまな市民運動をしている30団体の人々が一堂に集まるというのもこの行動の特徴であり、私たちの誇りとするところです。さらに戦争や命の破壊につながる問題にはその都度反対や抗議行動にも取り組んできました。2011年の3.11後には福島被災農家を招待、15年には戦争法(安保関連法)廃止のパレード、16年には戦争法施行に抗議する緊急アクションや自衛隊の南スーダン派兵反対緊急アクション、17年には「アベ政治も共謀罪も許さない藤沢集会」などです。また沖縄に連帯して、高江の森や辺野古の海を守るパネルの展示などで、沖縄の人々の声も紹介してきました。これからも藤沢の平和行動のシンボルとして続けていきたいと思います。

(島田 啓子)

ふじさわ・不戦のちかい 平和行動

辺野古レポート #3 「連帯」

辺野古に向かう車中から、低空で飛ぶ“オスプレー”の姿を何度も目にしました。

基地ゲート前に座り込み、工事用車両や、埋め立て用の砂利を運搬するダンプカーを止める県民の姿。非暴力の抵抗は、機動隊の暴力の前に排除されてしまう…。

「日本と言う国で、こんなことがあっていいのか！」初めて現場に来た人は誰もが驚きをかくせません。しかし、ここが日本の本当の姿で、私達のいる都会は虚構の世界なのだ。僕は辺野古に来るたびいつもそう思うのです。

翌日は、米国の「ジュゴン訴訟原告団」が辺野古を訪れ、連帯を誓いました。また、国際平和ビューロー（本部ベルリン）から「オール沖縄会議」に2017年の「国際平和賞」が送られることが決定しました。

同じ日の「沖縄タイムス」では4紙面にもわたって太平洋の島々の非植民地化運動の特集が組まれていました。島の3分の一を米軍基地が占めるグアムでは先住民のチャモロ人が議会での自己決定権を求め、沖縄を始め他の島々との「連帯」を呼びかけるというニュースでした。

2017年7月、国連での「核兵器禁止条約」が採択され、「ICAN」と日本の被ばく者の皆さんのノーベル平和賞受賞。連帯の輪は広がり、「大国に翻弄されてきた歴史はいつか変わる！」

今回の辺野古滞在で、僕は強くそう思うのでした。チバリヨー！（沖縄の言葉で、がんばるぞー！）沖縄！（武本 匡弘 日本サンゴ礁学会会員）



ECONET INFORMATION

▲石けんシャボン玉作り

9月22日(土) 10:00-12:00

場所 リサイクルプラザ2階市民体験教室

対象 中学生以上 無料

持物 エプロン 飲物 帽子 持帰り用ペットボトル

主催／申込 藤沢市石けん推進協議会

0466-44-1998



▲藤沢母親大会

9/8(土) 10:00-16:00 資料代 500円

藤沢市民会館 10:00-映画「ザ・思いやりⅡ」ほか

13:30 全体会 伊藤千尋さん講演

主催／問合せ 実行委員会 0466-26-1980

▲藤沢エコネットから

◆訂正しお詫び申し上げます

前号 291号 4ページ目 辺野古レポート#2の記事の最後の行 → そして、これらは太平洋を航海して訪れたマーシャルをはじめとするミクロネシアの国々で見た現実と正に“二重写し”に見えてくるのです。

◆1ページ 本文 15行目にHPを追加

<http://home.c07.itscom.net/sampe/potsdam/potsdam.html#1p>

◆学習会

「藤沢の地産地消エネルギーの現状と課題」

10月12日(金) 10:00-

藤沢市民会館 教養室

講師 藤沢市担当職員

どなたでも参加できます



◆会員募集 年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 77 カリネット

◆事務局会議 9月2日(日) 10:00~

市民活動推進センター

《編集後記》 8/15「ふじさわ不戦の誓い平和行動」は30団体の共同で華々しく 楽しく行われ、特に高校生平和大使の訴えは通行人の足を止めた。被爆者の直接お話を聞く最後の世代と自覚し、核兵器廃絶独自署名を集め、国連本部に届けるといふ。若い彼らに未来を託したい。猛暑、台風が続いて襲ってくる。温暖化対策待ったなし。10月学習会に是非参加をお願いしたい。(A)